



# 日本糖尿病・肥満動物学会 NEWS LETTER

Vol.27 No.1 Jun 2024

1) 号頭言「私のモデル動物を用いた糖尿病研究」(白川純先生) .....	1
2) 第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて(水上浩哉先生) .....	2
3) 若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(7) 「1型糖尿病モデルKDPラットにおける修飾遺伝子座の同定」(横井伯英先生) .....	3
4) 第38回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催のご案内 .....	3
5) 若手研究奨励賞を受賞して(16) .....	4
6) 2024年「日本糖尿病・肥満動物学会」受賞者報告 .....	5
7) 2023年事業・会計報告 .....	6
8) 2024年事業計画・予算 .....	8
9) 日本糖尿病・肥満動物学会会則／賛助会員名簿 .....	9

## 号頭言

### 「私のモデル動物を用いた糖尿病研究」

白川 純

群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医学分野

この度は号頭言の機会を頂き心より感謝申し上げます。  
私は、研修医1年目に、現理事長である横浜市立大学の寺内康夫先生らが報告したグルコキナーゼとIRS-2を介した代償性の膵β細胞増殖に関する論文を読んだことが糖尿病研究に取り組むきっかけとなりました。研修医2年目には、アメリカのジョスリン糖尿病センターから、インスリン抵抗性下における代償性の膵β細胞増殖には、膵β細胞のインスリン受容体が重要であるという論文も報告されました。この論文に対する巻頭の総説に描かれていた、細胞内のグルコースシグナルとインスリン受容体を介したシグナルとの2つの仮説に関する図を見た時に、この謎を解き明かしたいと思い、翌年には寺内先生の教室にて大学院に入学していました。また偶然にも、この論文を報告したアメリカのラボに後に留学することになりました。当時は寺内先生からも、病棟を担当しながらも夜中や休日を全て使って実験すれば大丈夫だと激励していただきました。大学院入学後は、糖尿病モデルマウスを用いて、膵β細胞のグルコースシグナルが細胞死や増殖を制御する機序などを中心に様々な研究に携わらせていただきました。

大学院を終える頃から、海外ではヒト膵島研究の重要性が唱えられており、ヒト膵島研究を日本でも実施したいと考えました。そこで、アメリカで積極的にヒト膵島研究を推進しているラボを探したところ、上述のジョスリン糖

尿病センターのRohit N. Kulkarni先生のラボが候補にあがり、留学先に決めました。留学時には、必要な書類が郵便で届かず、現日本糖尿病学会理事長の植木浩二郎先生がKulkarni先生に会われる予定があり、植木先生に直接書類を受け取っていただけて助けていただきました。アメリカでは、土日祝日はラボにいないPIが多い印象がありますが(ケープコッドの別荘で過ごすイメージ)、当時Kulkarni先生は土日祝日にも大抵ラボに来ていたため、オフィスのドアが開いている時にはチャンスと思い、アイデアやデータを持っていきました。平日のミーティングでは受け入れてもらえないようなことも、この時は少しハードルが下がり研究をすすめる原動力になりました。留学当初に与えられた課題は、肝臓の非常に難解な解析で、ネガティブデータの山を量産する日々も過ごしていましたが、上記の交渉で2年目の途中から膵β細胞のインスリンシグナルに関する遺伝子改変マウスとヒト膵島を組み合わせた研究を立ち上げ、同時にマウスのスペースも十分に確保でき、そこからやっと風が吹いてきました。

帰国後は、横浜市立大学に戻り、ヒト膵島研究の立ち上げにも取り組みました。背景の異なる多様なドナーの方から提供されたヒト膵島を用いた研究は、やればやる程結果のばらつきが大きく、遺伝背景や環境をそろえられるモデル動物研究の重要性を改めて再認識することになりました。ヒト検体を用いた研究が各分野で取り上げ

られておりますが、モデル動物で得られたデータをヒトサンプルに当てはめて進めるような両者の利点を生かしたハイブリッド研究が重要であると思います。また、理事長の寺内先生の下で本学会の事務局も経験させていただき、創新社の方の手厚いサポートに頼りきりで何も貢献できておりませんでした。コロナ禍や日本糖尿病学会分

科会になる過程を経験し、学会やモデル動物研究の課題なども学ぶことができました。現在は群馬大学にて研究の機会をいただき、多くの方に支えられながら、糖尿病の病態解明や治療法開発に少しでも貢献できる研究を発信していければと努力しております。引き続きご指導いただけますよう宜しくお願い致します。

## 第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて

水上 浩哉

弘前大学大学院医学研究科

バイオメディカルリサーチセンター 分子病態病理学講座

2014年3月15日、16日に第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を弘前大学50周年創立記念会館で開催させていただきました。3月の弘前は吹雪になることもあるのですが、幸いなことに天候に恵まれ、本当に安堵しました。本集会は対面では4年ぶりの地方開催となります。できる限り私の講座の教室員を中心に集会の運営を行いました。従って手作り感が高い集会となり、いくつかの不手際がありましたことはこの場をお借りしまして、お詫び申し上げます。初日の特別講演では北海道大学の伊庭靖弘先生に最新の化石研究についてお話をいただきました。糖尿病も動物も肥満も関係ないご講演でしたが、そのシステムの構築法など圧倒された1時間でした。また、学生の研究に対するモチベーションを上げるよう、学生セッションにおいても会場の先生方に審査員となっただき、3名の学生優秀発表賞の受賞者を選考することができました。その後、4年ぶりの授賞式、懇親会をアートホテル弘前で開催することができました。じつに100名以上の先生方に懇親会にご参加いただきました。余興の弘前大学の三味線サークルによる演奏などがありましたが、地酒とシードルの飲み比べが最も好評だったようです。会員同士で活発な情報交換ができ、やはり学会

には懇親会は必要と強く思った次第です。2日目は「合併症克服に向けた各合併症研究の最前線」と題したシンポジウムを開催し、各分野の先生方に貴重なご講演をいただきました。特別講演2では東北大学の片桐秀樹先生にご講演をいただきました。片桐先生には臓器連関による血糖コントロールについてこれまでの成果のみならず、研究の進め方に関してもお話いただきました。若い研究者に対してのみならず、指導者の先生方にも多くの示唆が得られたのではないのでしょうか。プレナリーレクチャーでは弘前大学の八木橋操六先生に弘前で生まれたGoto-Kakizakiラットについて、東北大学の古川徹先生に膵導管癌の前駆病変についてのお話をいただきました。歴史的事項から最新の知見まで非常に盛沢山だったと思います。地方開催で参加者がどのくらい集まるか非常に不安でしたが、総計130名超ご参加いただき、大変感謝しております。学術レベルの高さはもとより、青森の特色をうまく併せた懇親会などその他プラスアルファも参加者の先生方に楽しんでいただけたかと思います。本学術集会でご講演頂いた先生方、座長の先生方、御参加いただいた方々、また各協賛企業のご協力、ご支援など、本当にありがとうございました。

## 1型糖尿病モデルKDPラットにおける修飾遺伝子座の同定

横井 伯英

京都大学大学院農学研究科 動物遺伝育種学分野

この度は「若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告」に執筆する機会を与えて頂き厚く御礼申し上げます。私は2009年に岡山市にて開催されました第23回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において第2回若手研究奨励賞にご選出頂きました。恵まれた研究環境を与えて頂き、厳しくも温かいご指導を頂きました故清野進先生(神戸大学大学院医学研究科)に心より感謝申し上げます。

私は学位研究として自然発症1型糖尿病モデルKDPラットの遺伝素因に関する研究を開始して以来、一貫して本モデルを用いて1型糖尿病の遺伝素因ならびに発症機序の解明に関する研究を遂行してきました。2002年にKDPラットの開発者である東京医科大学の故米田嘉重郎先生との共同研究として、Cblb遺伝子におけるナンセンス変異の同定に成功しました(Nature Genetics, 2002)。次いで、2つの主要遺伝子座(CblbとMHC)を組み込んだコンジュニック系統の作出により、Cblb変異と1型糖尿病感受性のMHCハプロタイプという2つの主要遺伝子の組み合わせで1型糖尿病が発症することを証明しました(Diabetes, 2007)。その際、2つの主要遺伝子以外に発

症を修飾する遺伝子の存在が強く示唆されました。そこで、コンジュニック系統とKDPラットの交配実験により修飾遺伝子座の探索を行いました。その結果、KDPラットの1型糖尿病の発症に関与する修飾遺伝子座がラット第9および第20染色体上に存在すること、また興味深いことに、日齢および性別特異的に作用する遺伝子座が存在することが明らかになりました。さらに、Cblb変異と甲状腺炎感受性のMHCハプロタイプの組み合わせで橋本病に類似する自己免疫性甲状腺炎が発症することを明らかにし、2つの主要遺伝子による臓器特異的自己免疫疾患の発症機序について普遍的モデルを提唱するに至りました(Genes and Immunity, 2012)。

2019年より京都大学大学院農学研究科に異動し、現在は学部学生や修士課程の学生とともに肥満2型糖尿病モデルであるZFDMラットやNSY-Ayマウスを用いた研究に取り組んでおります。今後も、糖尿病や肥満の動物モデルを駆使した研究により新規の知見を探求するとともに本学会の活動にも貢献していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 第38回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会のご案内

日時：令和7(2025)年3月28日(金)・29日(土)

開催地：ニューオータニイン札幌

〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目1-1 Tel:011-222-1111

URL: <https://newotanisapporo.com/>

会長：中村 昭伸(北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

ホームページ: <https://jsedo.jp/jsedo38/>

プログラム内容：

特別講演

演者 益崎 裕章 教授(琉球大学 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座)

その他

お問い合わせ先：

●主催事務局 北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室 事務局長：亀田 啓  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

●運営事務局 株式会社コンベンション・ラボ内  
〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本6-4-12-4F  
E-mail: [jsedo38@conventionlab.net](mailto:jsedo38@conventionlab.net)

## 若手研究奨励賞を受賞して ⑬

### CRISPR-Cas9によるアデノ随伴ウイルス(AAV8)を用いた膵β細胞特異的遺伝子ノックアウトシステムの確立

植木 響政

順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学講座

第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。会長の水上市浩哉先生はじめ、選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。私達はオートファジーと膵β細胞機能不全の関係を研究しており、膵β細胞特異的遺伝子ノックアウト(KO)マウスの解析は不可欠な手法です。研究の効率化のためには、Cre-loxPシステムを用いたKOマウスの作製時間の短縮が重要と考えました。そこで、膵β細胞特異的にCas9を発現したマウスを作製後、アデノ随伴ウイルスベクターを用いて腹腔内注射によりgRNAを導入し、膵β細胞特異的遺伝子KOを実現するβCas9法を開発しました。その結果、gRNA導入からわずか4週間で表現型を伴った膵β細胞特異的遺伝子KOマウスの作製に成功しました。今後はβCas9法を用いて、糖尿病や肥満症における膵β細胞を中心とした病態生理の解明を加速させたいと考えています。受賞を励みに一層の精進を重ねる所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、綿田裕孝教授、西田友哉准教授をはじめ共同研究者の皆様へ感謝致します。

### 内皮細胞特異的O-GlcNAc transferase欠損マウスは高脂肪食による肥満に対し抵抗性を示す

大角誠一郎

滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病内分泌・腎臓内科

この度は第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。学術集会長の水上市浩哉先生をはじめ、選考委員の先生方、学会関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

我々の教室では様々な蛋白の翻訳後修飾であるO-GlcNAc修飾が生体内で果たす役割について、全身および様々な臓器ごとに詳細に検討を行っております。私の研究テーマは内皮細胞でのO-GlcNAc修飾の重要性の解明です。内皮細胞でO-GlcNAc修飾を欠損させると、高脂肪食による肥満に抵抗性を示すことを発見しました。その機序として、腸管絨毛リンパ管の内皮細胞間結合を隙間の無い“zipper-type”へ変化させることで脂質吸収を抑制することを明らかにしました。そこにはVEGFR3

やNitric Oxideの関与が考えられました。今回の受賞を励みに、この結果をより発展させられるよう精進して参ります。

最後に、本研究にご指導いただきました滋賀医科大学の前川聡先生、藤田征弘先生、久米真司先生、井田昌吾先生、富山大学の戸邊一之先生、また共同研究者の皆様へ心より感謝申し上げます。

### Calcineurin/NFATc3-FoxM1経路を介した肥満代償性膵β細胞増殖機構の解明

木幡 将人

東北大学大学院医学系研究科 糖尿病代謝・内分泌内科学分野

この度は第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。学術集会会長の水上市浩哉先生をはじめ、選考委員の先生方、学会関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

私たちの研究室では、臓器間ネットワークを中心とした個体レベルでの恒常性を維持するメカニズムの解明を目指して研究を進めております。今回、肥満形成期における代償性膵β細胞増殖を引き起こす臓器間神経ネットワーク機構のなかで、迷走神経シグナルが膵β細胞内のどのような分子機構で、FoxM1経路活性化や膵β細胞増殖を誘導するかを検証しました。誘導性膵β細胞特異的ノックアウトマウスを作成して解析を進め、肥満形成期の個体の耐糖能維持にcalcineurin/NFATc3-FoxM1経路を介した膵β細胞増殖機構が重要であることを明らかにしました。

今回の受賞を励みに、研究を一步一步前へ進めていけるよう、これからも精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、ご指導いただきました片桐秀樹先生、今井淳太先生をはじめ共同研究者の先生方に心より感謝申し上げます。

### 膵α細胞におけるimegliminの多面的作用の解明

都野 貴寛

群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医学分野

この度は、第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を賜り大変光栄に存じます。学術集会会長の水上市浩哉先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに学会関係者の方々に深く感謝を申し上げます。

私たちは、糖尿病治療薬imegliminの膵α細胞での作用を解析しました。Imegliminで刺激したマウス膵島のシングルセルRNAシーケンス解析から、imegliminがMafBやGnasの発現低下を介して膵α細胞の成熟状態や

グルカゴン分泌を変化させる可能性を見出し、imegliminによる膵 $\alpha$ 細胞のグルカゴン分泌抑制および膵 $\alpha$ 細胞から膵 $\beta$ 細胞への分化転換をマウス膵島、ヒト膵島、ヒト多能性幹細胞由来のグルカゴン産生細胞を用いて明らかにしました。またこれらのimegliminの膵 $\alpha$ 細胞への作用に、CHOPの発現上昇が関わることも明らかにしました。現在、さらに詳細なメカニズムの解析を進めております。

最後になりましたが、当教室の白川純教授、横浜市立大学の寺内康夫教授をはじめ、ご指導いただきました諸先生方に心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、一層の研鑽と精進を重ねて参りたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 糖尿病病態における膵 $\beta$ 細胞由来エクソソームの動態および役割の解明

横井 愛紗

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科

この度は第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会において、若手研究奨励賞を賜り誠に光栄に存じま

す。学術集会会長の水上浩哉先生をはじめ、選考委員会の先生方、学会関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。

我々は、膵 $\beta$ 細胞由来のエクソソームの動態や役割を解明するために、独自にエクソソームtrackingマウスを作製し、膵 $\beta$ 細胞由来エクソソームのin vivoにおける動態と役割について検討を開始しました。今回の様々な検討により膵 $\beta$ 細胞から分泌されるエクソソームは、脳および骨格筋へ特異的に移行し、取り込まれることが明らかとなりました。また糖尿病モデルマウスでは、脳への移行が増強され、糖尿病状態での膵 $\beta$ 細胞から脳への求心性経路にエクソソームが関与している可能性が示唆されました。今後、さらに詳細に解析を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究推進にあたり、多大なるご助言及びご支援をくださいました浅原俊一郎先生、また共同研究者の先生方に、心より深く感謝いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2024年「日本糖尿病・肥満動物学会」受賞者報告

後藤賞:

中村 二郎(愛知医科大学医学部 先進糖尿病治療学寄附講座)  
「糖尿病性合併症の発症メカニズムの解明と治療法の確立」

学会賞米田賞:

綿田 裕孝(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学)  
「糖尿病における膵 $\beta$ 細胞障害のメカニズムと動脈硬化促進因子」

研究賞:

中村 昭伸(北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室)  
「モデル動物から得られたグルコキナーゼに関する新たな知見」

若手研究奨励賞:

植木響政(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学講座)  
「CRISPR-Cas9によるアデノ随伴ウイルス(AAV8)を用いた膵 $\beta$ 細胞特異的遺伝子ノックアウトシステムの確立」

大角誠一郎(滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病内分泌・腎臓内科)  
「内皮細胞特異的O-GlcNAc transferase欠損マウスは高脂肪食による肥満に対し抵抗性を示す」

木幡 将人(東北大学大学院医学系研究科 糖尿病代謝・内分泌内科学分野)  
「Calcineurin/NFATc3-FoxM1経路を介した肥満代償性膵 $\beta$ 細胞増殖機構の解明」

都野 貴寛(群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医科学分野)  
「膵 $\alpha$ 細胞におけるimegliminの多面的作用の解明」

横井 愛紗(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科)  
「糖尿病病態における膵 $\beta$ 細胞由来エクソソームの動態および役割の解明」

2023年事業・会計報告 (2023年1月1日~12月31日)

1. 庶務関係報告

- 1) 日本糖尿病学会 分科会について
- 2) 会則の改定
- 3) 役員改選
- 4) 会員の動向

	2022年末	新入会	退会	物故会員	復会会員	2023年 12月末日	増減
正会員	233	5	△ 31	0	0	207	△ 26
学生	56	3	△ 10	0	0	49	△ 7
団体会員	1	0	0	0	0	1	0
賛助会員	11	0	△ 1	0	0	10	△ 1
名誉会員	21	0	0	0	0	21	0
合計	322	8	△ 42	0	0	288	△ 34

5) 会議の開催

- 常務理事会
  - 第1回：1月12日 (於：ZOOMオンライン会議)
  - 第2回：7月26日 (於：ZOOMオンライン会議)
  - 第3回：12月7日 (於：ZOOMオンライン会議)
- 評議員会
  - 2月17日 (於：TKP神保町プレミアムガーデン)
- 総会
  - 第1回：2月18日 (於：一橋大学一橋講堂)
- 産学協議会
  - 第1回：2月18日 (於：一橋大学一橋講堂)
- 理事会
  - 第1回：2月17日 (於：TKP神保町プレミアムガーデン)
- 将来計画ワーキンググループ
  - 第1回：8月31日 (於：ZOOMオンライン会議)
- 臨時理事会
  - 第1回：2月18日 (於：一橋大学一橋講堂)

2. 会計関係報告

科 目	予算額 (a)	決算額 (b)	差 異 (c)=(a)-(b)	備 考
<b>収入の部</b>				
1. 会費収入	2,216,500	1,460,500	756,000	
1) 正会員会費収入	1,165,000	790,000	375,000	5,000円×158名
2) 学生会費収入	84,000	30,000	54,000	1,500円×20名
3) 団体会員会費収入	10,000	10,000	0	10,000円×1社
4) 賛助会員会費収入	550,000	450,000	100,000	50,000円×9社 (9口)
5) 過年未収会費収入	412,500	165,500	247,000	正会員5,000円×31名、学生会員1,500円×7名
6) 次年前受会費収入	△ 5,000	15,000	△ 20,000	5,000円×3名
2. 助成金	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000	日本糖尿病学会、鈴木万平糖尿病財団
3. 寄付金	0	130,864	△ 130,864	第36回年次学術集会
4. 雑収入 (預金利息含)	0	11,507	△ 11,507	
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>5,216,500</b>	<b>6,602,871</b>	<b>△ 1,386,371</b>	
<b>前期繰越収支額 (B)</b>	<b>5,236,057</b>	<b>5,236,057</b>	<b>0</b>	
<b>収入合計 (C=A+B)</b>	<b>10,452,557</b>	<b>11,838,928</b>	<b>△ 1,386,371</b>	
<b>支出の部</b>				
1. 印刷費				
ニュースレター編集・印刷費	250,000	242,000	8,000	Vol.26, No.1、No.2
挨拶状コピー代	300,000	130,991	169,009	会費請求、総会案内状
2. 会議費	300,000	0	300,000	
3. 通信費	100,000	101,323	△ 1,323	ニュースレター、年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000	第36回、第37回年次学術集会
5. 事務用品費	50,000	1,100	48,900	
6. 旅費交通費	50,000	18,200	31,800	第36回年次学術集会
7. 名簿管理・事務代行費 (株創新社)	330,000	330,000	0	事務委託費22,000円×12か月 年次学術集会月 66,000円×1か月
8. ホームページ維持・管理・更新費 (株創新社)	264,000	264,000	0	22,000円×12か月
9. 学会賞関連	800,000	629,491	170,509	
10. 振込手数料、他	30,000	48,733	△ 18,733	支払手数料、他
11. 予備費	500,000	0	500,000	
<b>当期支出合計 (D)</b>	<b>5,974,000</b>	<b>6,765,838</b>	<b>△ 791,838</b>	
<b>次期繰越収支差額 (E=C-D)</b>	<b>4,478,557</b>	<b>5,073,090</b>	<b>△ 594,533</b>	
<b>支出合計 (F=D+E)</b>	<b>10,452,557</b>	<b>11,838,928</b>	<b>△ 1,386,371</b>	

## 3. 年次学術集会関係報告

## 1) 第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

日時:2月17日(金)・18日(土)

会場:一橋大学一橋講堂

会長:綿田 裕孝(順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学講座)

## 2) 若手研究奨励賞受賞者(5名)

鷗澤 博嗣

(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学講座)

「膵β細胞におけるUFMylationの病態生理学的意義の検討」

大藪 葵

(京都府立大学 生命環境科学研究科 分子栄養学研究室)

「低栄養性脂肪肝における骨格筋FoxOsシグナルの役割の解明」

清家 雅子

(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学)

「膵β細胞におけるmTORC1活性化が膵島可塑性に及ぼす影響の検討」

竹内 彬

(東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野)

「褐色脂肪組織のPGC-1αは個体レベルのエネルギー消費の雌雄差に関与している」

三浦 雅臣

(東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科)

「SIRT1の腸管内分泌細胞における制御メカニズムの解明」

## 4. ニュースレター関係

Vol.26, No.1掲載内容(6月1日発行)

- ・号頭言「糖尿病性神経障害の研究と私」(神谷英紀)
- ・第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて(綿田裕孝)
- ・第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(5)
  - Muscle-specific AdipoR欠損マウスを用いた骨格筋におけるアディポネクチン経路の生理的意義の解明(岩部真人)
- ・若手研究奨励賞を受賞して(15)

Vol.26, No.2掲載内容(11月30日発行)

- ・号頭言:「米田嘉重郎先生からのメッセージ」(横井伯英)
- ・第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって(水上浩哉)
- ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(6)
  - 脂肪組織M1/M2マクロファージとインスリン感受性の関連についての検討(藤坂志帆)

## 5. 学会賞関係報告

## 1) 受賞者一覧

学会賞「米田賞」:

小川 佳宏

(九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野)

「遺伝子操作マウスを用いた肥満関連疾患の分子病態に関する研究」

研究賞:

藤坂 志帆

(富山大学学術研究部医学系第一内科)

「肥満インスリン抵抗性における脂肪組織M1/M2マクロファージおよび腸内細菌叢の意義」

## 2) 2024年 学会賞各賞の募集

## 6. ホームページについて

## 1) ホームページアクセス数(ページビュー)

2023年1月	3,513	7月	991
2月	4,572	8月	2,716
3月	1,298	9月	1,820
4月	1,169	10月	1,767
5月	1,264	11月	3,744
6月	855	12月	9,081

## 2) 更新内容

- ・年次学術集会について(第36回~第38回)
- ・お知らせページ(学会賞募集案内)
- ・ニュースレターページ

## 3) その他

- ・バナー広告募集の推進について
- ・メール配信の実施(更新案内など)
- ・メールアドレス登録の推進
- ・その他

2024年事業計画・予算 (2024年1月1日～12月31日)

- 1. 庶務関係
  - 1) 会員関係 会員の増強について
  - 2) 諸会議の開催
- 2. 会計関係
  - 1) 2024年予算の施行

科 目	2024年 予算額 (a)	前 年 予算額 (b)	差 異 (c)=(a)-(b)	備 考
<b>収入の部</b>				
1. 会費収入	1,897,000	2,216,500	△ 319,500	
1) 正会員会費収入	1,035,000	1,165,000	△ 130,000	5,000円×207名
2) 学生会員会費収入	73,500	84,000	△ 10,500	1,500円×49名
3) 団体会員会費収入	10,000	10,000	0	10,000円×1社
4) 賛助会員会費収入	500,000	550,000	△ 50,000	50,000円×10社 (10口)
5) 過年未収会費収入	293,500	412,500	△ 119,000	正会員5,000円×50名、学生会員1,500円×29名
6) 次年前受会費収入	△ 15,000	△ 5,000	△ 10,000	5,000円×3名
2. 助成金	3,000,000	3,000,000	0	日本糖尿病学会、鈴木万平糖尿病財団
3. 雑収入(預金利息)	0	0	0	
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>4,897,000</b>	<b>5,216,500</b>	<b>△ 319,500</b>	
<b>前期繰越収支額 (B)</b>	<b>5,073,090</b>	<b>5,236,057</b>	<b>△ 162,967</b>	
<b>収入合計 (C=A+B)</b>	<b>9,970,090</b>	<b>10,452,557</b>	<b>△ 482,467</b>	
<b>支出の部</b>				
1. 印刷費				
ニュースレター編集・印刷費	250,000	250,000	0	Vol.27, No.1 No.2
挨拶状コピー代	300,000	300,000	0	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	200,000	300,000	△ 100,000	年3回開催
3. 通信費	100,000	100,000	0	ニュースレター、年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	3,000,000	3,000,000	0	第38回年次学術集会
5. 事務用品費	50,000	50,000	0	
6. 旅費交通費	150,000	50,000	100,000	事務局出張費(弘前)
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	330,000	330,000	0	事務委託費22,000円×12 か月 年次学術集会月 66,000円×1 か月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	264,000	264,000	0	22,000円×12か月
9. 学会賞関連	800,000	800,000	0	
10. 振込手数料	30,000	30,000	0	支払手数料、他
11. 予備費	500,000	500,000	0	
<b>当期支出合計 (D)</b>	<b>5,974,000</b>	<b>5,974,000</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越収支差額 (E=C-D)</b>	<b>3,996,090</b>	<b>4,478,557</b>	<b>△ 482,467</b>	
<b>支出合計 (F=D+E)</b>	<b>9,970,090</b>	<b>10,452,557</b>	<b>△ 482,467</b>	

- 3. 年次学術集会関係
  - 1) 年次学術集会の開催
    - 第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会
    - 日 時: 3月15日(金)・16日(土)
    - 会 場: 弘前大学創立50周年記念会館
    - 会 長: 水上 浩哉
    - (弘前大学大学院医学研究科附属バイオリサーチセンター  
分子病態病理学講座)
  - ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(8)  
脂肪織由来間葉系幹細胞の糖尿病ラット進行期神経障害への効果(水上浩哉)  
※内容や執筆者に関しましては、都合により変更になる場合もございます。
- 4. ニュースレター関係
  - ニュースレターの発行(年2回発行とする)
  - Vol.27, No.1掲載内容
    - ・号頭言: 白川 純
    - ・第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて(水上浩哉)
    - ・第38回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
    - ・若手研究奨励賞を受賞して
    - ・若手研究奨励賞受賞者 研究経過報告(7)  
1型糖尿病モデルKDPラットにおける修飾遺伝子座の同定(横井伯英)
  - Vol.27, No.2掲載内容
    - ・号頭言: 益崎 裕章
    - ・第38回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって(中村昭伸)
- 5. 学会賞 関係
  - 1) 2024年受賞者一覧
    - 後藤賞  
中村 二郎  
(愛知医科大学医学部先進糖尿病治療学寄附講座)  
「糖尿病性合併症の発症メカニズムの解明と治療法の確立」
    - 学会賞「米田賞」  
綿田 裕孝(順天堂大学大学院医学研究科代謝内科学)  
「糖尿病における膵β細胞障害のメカニズムと動脈硬化促進因子」
    - 研究賞  
中村 昭伸(北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室)  
「モデル動物から得られたグルコキナーゼに関する新たな知見」
  - 2) 2025年 学会賞各賞の募集の実施
- 6. その他
  - ・第67回日本糖尿病学会年次学術集会での合同シンポジウムの開催について



## 日本糖尿病・肥満動物学会 会則

### (名 称)

第1条 本会は、一般社団法人日本糖尿病学会の分科会で、日本糖尿病・肥満動物学会（英文ではJapan Society of Experimental Diabetes and Obesity : SEDO）と称する。

### (目 的)

第2条 本会は糖尿病・肥満動物の研究を通じて糖尿病をはじめ肥満、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化などに関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、医学、実験動物学、栄養学、薬学等の進歩をはかり、もってわが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会等の開催
- (2) 会誌、書籍、資料等の刊行
- (3) 研究の奨励および研究業績の表彰
- (4) 国内外の関係学術団体との連絡および提携
- (5) その他、産学協議会の設置ほか当学会の目的を達成するために必要な事業

### (会 員)

第4条 本会の会員は次の通りとし、正会員の過半数は、一般社団法人日本糖尿病学会の会員とする。

1. 正会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した個人
2. 学生会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した学生
3. 名誉会員 本会の発展に尽し、学術上顕著な功績のあった者で、理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会で承認された者
4. 団体会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した団体
5. 賛助会員 本会の目的、事業を賛助する法人または団体

### (入退会)

第5条 本会の会員になろうとする者は当該年度の会費を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。ただし、名誉会員に推荐された者は入会の手続きを要せず、別に定める手続きを経、かつ本人の承諾をもって会員となるものとする。

2. 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出し、理事会の承認を得なければならない。

### (会 費)

第6条 本会の会費は別に定める。

2. 名誉会員は会費を納めることを要しない。
3. 会費は前納するものとする。前納した会費はいかなる理由があってもこれを返却しない。

### (資格の喪失)

第7条 会員は次の理由によって、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 禁治産若くは準禁治産の宣告を受けたとき
- (3) 死亡し、若くは失跡宣告を受け、または本会が解散したとき
- (4) 除名されたとき
- (5) 会費を3年以上滞納したとき

### (役 員)

第8条 本会には次の役員をおく。

理 事 10名以上15名以内〔うち理事長1名、副理事長1名、常務理事（庶務、会計、編集）〕

年次学術集会長 1名

監 事 2名

### (役員を選任)

第9条 理事および監事は、理事会が正会員および賛助会員（登録者）から推薦し、評議員会の承認を得た上で、総会で選任する。ただし、賛助会員からの理事数は正会員からの理事数の3分の1を超えないものとする。

2. 理事は互選で理事長および副理事長、常務理事を定める。
3. 理事および監事は、兼務することができない。
4. 年次学術集会長は理事会が正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。理事は年次学術集会長を兼務することができる。
5. 監事は理事会において正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。

### (役員職務)

第10条 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときは職務を代行する。
3. 理事は理事会を組織し、この規則に定めるもののほか、常務理事会からの提案事項その他を審議する。
4. 常務理事は理事長および副理事長とともに常務理事会を組織し、本会の実務にあたる。
5. 年次学術集会長は年次学術集会の会長を務める。必用に応じて常務理事会および理事会に出席して意見を述べるができる。
6. 監事は本会の業務および財産状況を監査し、これを理事会および総会に報告する。

### (役員任期)

第11条 役員任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。ただし、年次学術集会長の任期は1年とし、再任は認めない。

2. 補欠または増員によって選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員はその任期終了でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

### (評議員選任)

第12条 本会には評議員をおく。

2. 評議員は正会員の中から理事会が推薦し、総会

の承認を得て、理事長が任命する。

3. 評議員の任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。
4. 評議員は評議員会を組織して本会則に定める事項を行うほか、理事会の諮問があった事項、その他必要と認める事項について助言する。

(会議)

第13条 定期総会は毎年1回開く。ただし、理事会が必要と認めたととき、または正会員の5分の1以上の要請があったときは、臨時総会を開くことができる。

2. 総会は会員の5分の1以上(委任状を含む)の出席をもって成立する。

3. 総会の議決は出席者(委任状を含む)の過半数をもって決する。

第14条 理事会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または理事の3分の1以上から理事会招集の要請があったときは、理事長は20日以内に招集しなければならない。

2. 理事会の議長は理事長とする。

3. 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ会議を開き、審議することができない。

4. 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

5. 重要な事項の議事は、一般社団法人日本糖尿病学会の承認を得ることとする。

第15条 常務理事会は理事長が招集し、毎年3回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または常務理事の3分の1以上から常務理事会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

2. 常務理事は庶務、会計、編集等の役割分担を行い、実務を行う。

第16条 評議員会は毎年1回理事長が招集する。

2. 評議員会の成立および議決等は理事会に準じて行う。

第17条 本会に産学協議会をおく。

2. 産学協議会は本学会と産業界を取り巻く問題について意見を交換し、本会の目的を達成するための研究奨励および事業等について提言する。

3. 産学協議会は理事長、副理事長、常務理事および賛助会員から選出された若干名のものによって

構成する。

4. 産学協議会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または産学協議会委員の3分の1以上から産学協議会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

(会計)

第18条 本会の運営は会費その他の収入をもって充てる。

2. 本会に対する寄付金は理事会の決議を経て受理する。

3. 本会の会計および事業年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(会則の変更)

第19条 本会則を変更するときは、理事会の議を経て、総会の承認、および一般社団法人日本糖尿病学会の承認を得るものとする。

(事務局)

第20条 本会の事務局は、株式会社創新社内に置く。

(付則)

1. 本会則は平成19年2月10日より施行する。

平成20年2月9日 改定(第12条3項変更)

平成21年2月14日 同(第2条変更)

平成25年2月23日 同(第7条変更)

平成27年2月14日 同(第9条変更)

令和5年2月18日 同(第1条、第4条、第14条、第19条変更)

2. 本会の会費は次の通りとする。

正会員 5,000円

学生会員 1,500円

団体会員 10,000円

賛助会員 1口 50,000円

3. 現在の幹事11名は、全員日本糖尿病・肥満動物学会の理事とする。

4. 本会は、会則を新たにして、これまでの日本糖尿病動物研究会を日本糖尿病・肥満動物学会として継続するもので、平成19年2月10日現在の日本糖尿病動物研究会のすべての財産を受け継ぐものとする。

5. 本会則は、平成20年2月9日に改定し、同日より施行する。

## 賛助会員(2024年6月現在)

EPTレーディング株式会社、小野薬品工業株式会社、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社、田辺三菱製薬株式会社、日本エスエルシー株式会社、日本クリア株式会社、富士フイルム和光純薬株式会社、ノボ ノルディスクファーマ株式会社、株式会社森永生科学研究所

## 日本糖尿病・肥満動物学会

Vol.27 No.1 Jun 2024

発行日：2024年6月30日

発行人：日本糖尿病・肥満動物学会理事長 寺内 康夫

編集人：水上 浩哉

編集及び学会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11(株)創新社内 TEL 03-5521-2881/FAX 03-5521-2883

URL <http://jsedo.jp/> E-mail [info@jsedo.jp](mailto:info@jsedo.jp)

会員専用ページ ID:jsedo PW:member